

現地災害調査報告

平成29年11月10日に長崎県大村市田下町から
中岳町にかけて発生した突風について

1	概要	1
2	現象に関する情報	1
3	現地調査結果の詳細	2
4	気象状況	5
5	被害状況	7
6	防災気象情報の発表状況	8
	参考資料	9

注) 本資料は、速報として取り急ぎまとめたものですので、後日、内容を訂正、追加することがあります。

平成29年11月27日

長崎地方気象台

1 概要

11月10日20時00分から20時20分のあいだに、長崎県大村市田下町から中岳町にかけて突風が発生し、住家の屋根瓦のめくれなどの被害があった。

このため11月11日、長崎地方気象台は突風をもたらした現象を明らかにするため、職員を気象庁機動調査班（JMA-MOT）として派遣し、現地調査を実施した。

調査結果は以下のとおりである。

2 現象に関する情報

（1）突風をもたらした現象の種類

この突風をもたらした現象は、竜巻の可能性のあるものの特定に至らなかった。

（竜巻の可能性があったとした根拠）

- ・被害や痕跡は断続的ではあるが帯状に分布していた。
- ・被害や痕跡から推定した風向は様々な方向を示していた。

（特定に至らなかった理由）

- ・目撃証言や映像等の竜巻を示唆する情報が得られなかった。

（2）強さ（日本版改良藤田（JEF）スケール）

この突風の強さは、風速約35m/sと推定され、日本版改良藤田スケールでJEF0に該当する。

（根拠）

- ・住家の屋根瓦のめくれ。

《根拠に用いた被害指標（DI）及び被害度（DOD）》

- ・DI：木造の住宅又は店舗

DOD：比較的狭い範囲での屋根ふき材の浮き上がり又ははく離
粘土瓦ぶきの場合（代表値）

（3）発生時刻と場所

この突風は、11月10日20時00分から20時20分のあいだに、大村市田下町で発生した。

（根拠）

- ・大村市田下町で20時過ぎに雨・風の強まりを感じたという証言があった。
- ・気象レーダー観測によると、発達した降水域が長崎県大村市田下町付近を20時00分から20時20分にかけて東方向へ移動していた。

（4）被害範囲

この突風による被害範囲は長さ約450m、幅約30mであった。

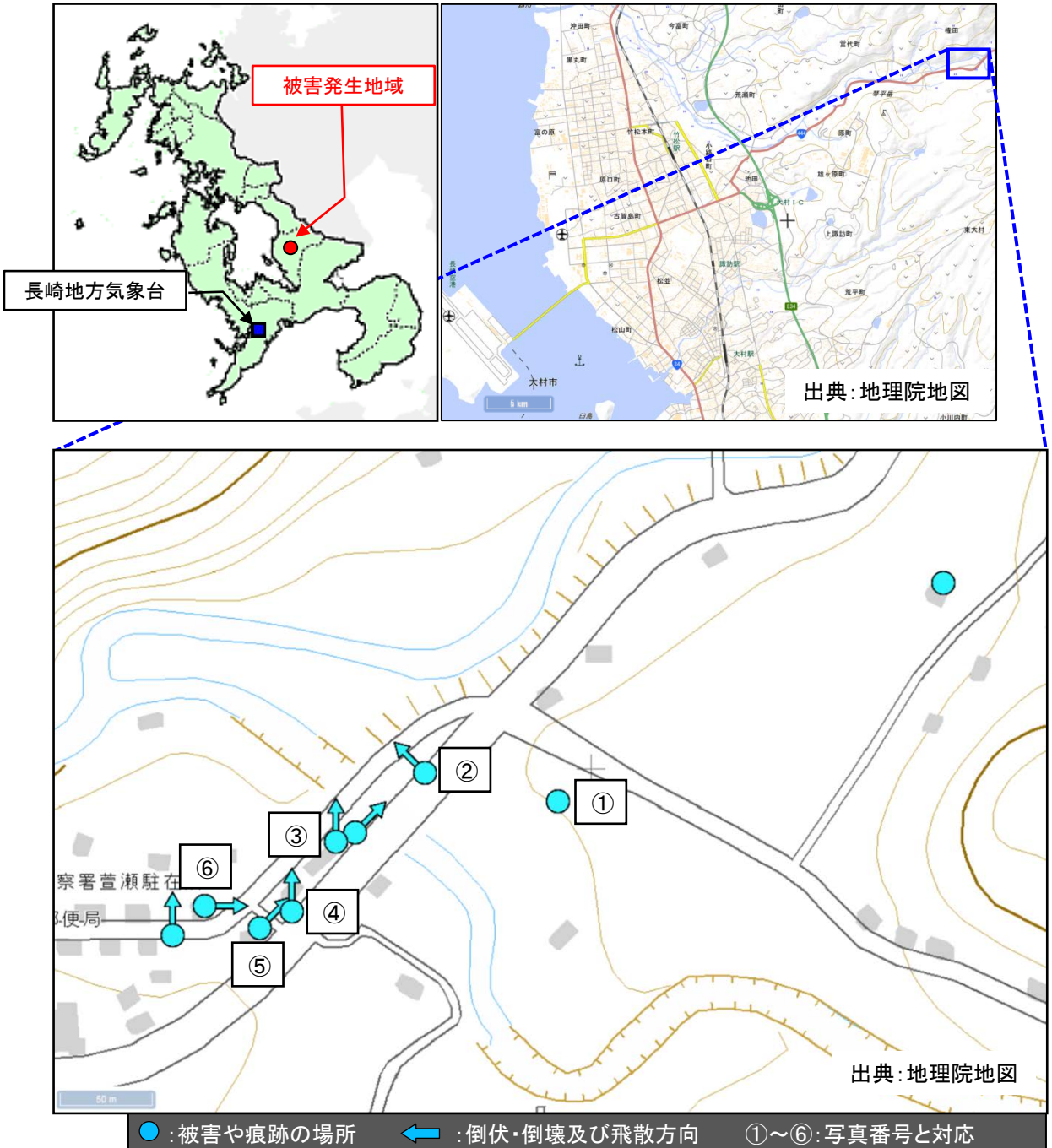
3 現地調査結果の詳細

実施官署：長崎地方気象台

実施場所：長崎県大村市田下町から中岳町にかけて

実施日時：平成29年11月11日 16時00分～20時00分

調査内容：被害を受けた建物等の分布・被害の程度、風の状況等を調査すると共に住民から聞き取り調査を実施した。



被害分布図

(1) 被害状況



①倒壊した物置小屋



②倒壊したパイプハウス



③幹折れした樹木（腐朽あり）



④屋根瓦がめくれた住家(提供:大村消防署)



⑤飛散したパイプハウス(提供:大村消防署)



⑥破損したカーポートの屋根

(2) 聞き取り状況

a 氏

- ・ ゴーという音がすごかった。
- ・ 雨は強かった。

b 氏

- ・ 家が揺れるような感じがした。
- ・ 強雨があった。

c 氏

- ・ 雷、雨が強かった。ひょうは確認できなかった。
- ・ 風が強くいろんな物が西から東に飛んでいた。
- ・ 家が揺れた。

d 氏

- ・ 雨・風・雷が急に強くなった。
- ・ 家が揺れた感じがした。

e 氏

- ・ ゴーという音がすごかった。
- ・ 家が揺れている感じがした。
- ・ 強い雨があった。

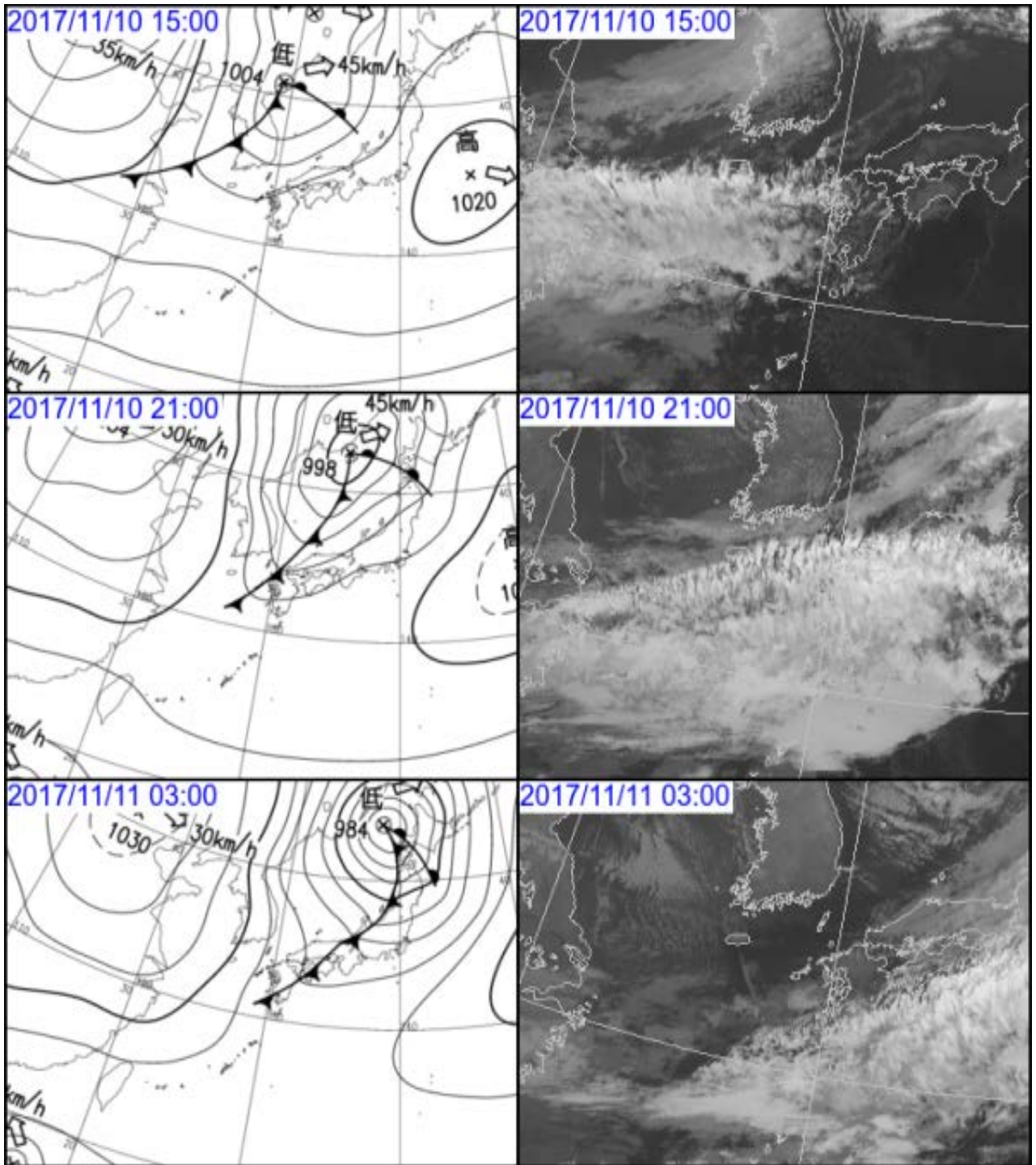
f 氏

- ・ 20時過ぎ頃、雨がバタバタと音を立てて20～30秒程度続いた。
- ・ 雨風が強くゴーッという音がした。
- ・ 枯葉が渦を巻くように舞っていた。

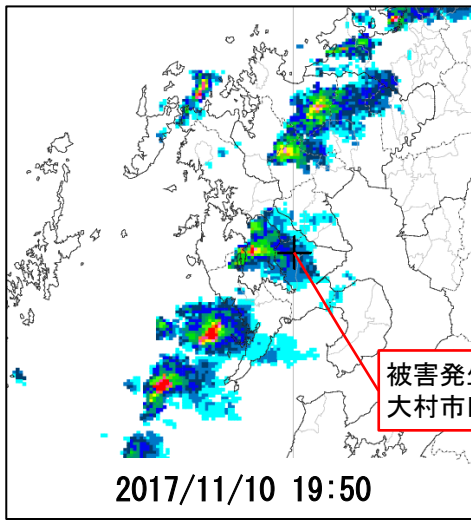
4 気象状況

11月10日夕方から11日未明にかけて、日本海の低気圧から南西にのびる寒冷前線が九州北部地方を通過した。

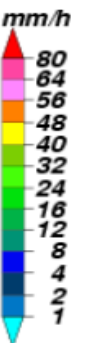
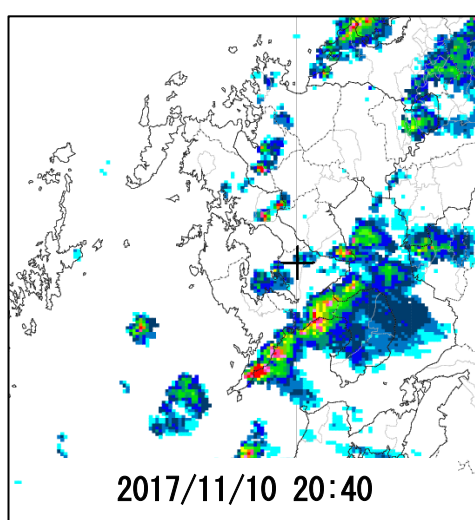
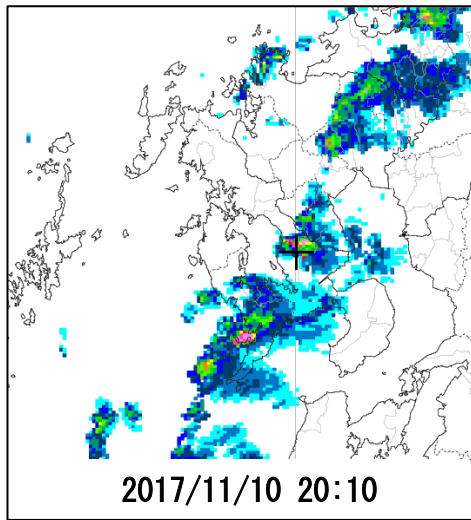
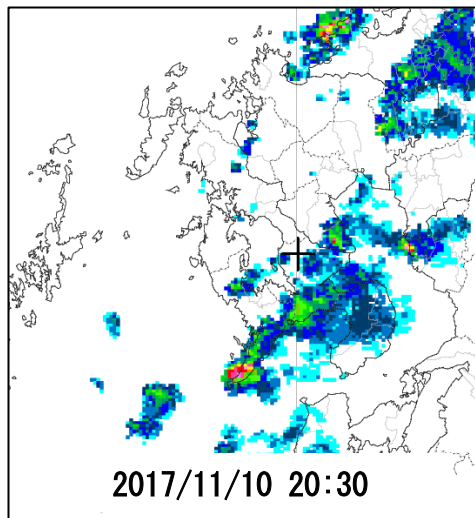
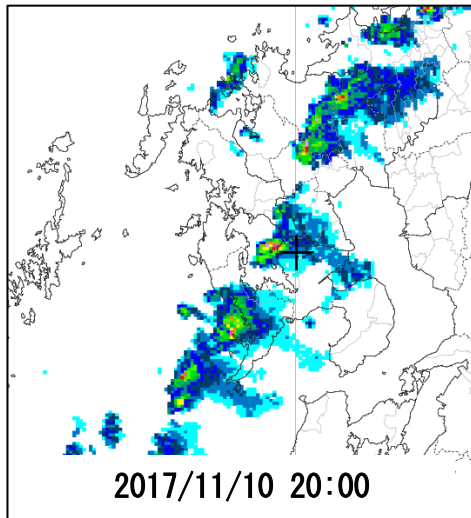
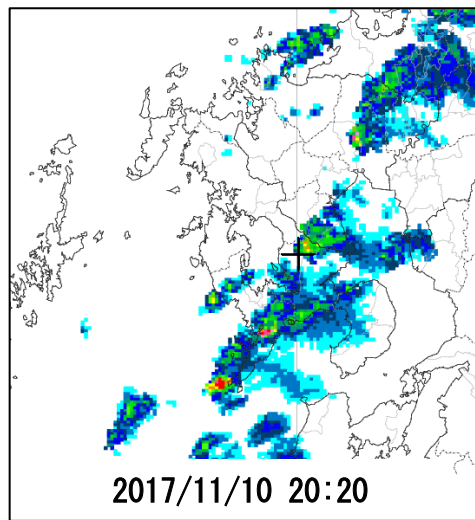
このため、長崎県では南から暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となった。



平成29年11月10日15時～11日03時の地上天気図（左）と気象衛星画像（右）



被害発生地域：
大村市田下町



気象レーダー画像（平成29年11月10日19時50分～20時40分）

5 被害状況

県央地域市町村圏組合消防本部調べ（11月11日 11時54分現在）

人的被害 なし

家屋被害 住家

- ・屋根の瓦飛散 1 件
- ・ひさしの一部損壊 1 件

非住家

- ・物置小屋の屋根の飛散 1 件
- ・カーポート屋根飛散（一部損壊） 2 件
- ・ビニールハウス飛散 1 件、一部飛散 2 件
- ・倒木（栗） 1 件

6 防災気象情報の発表状況（11月10日00時から24時）

大村市の警報・注意報

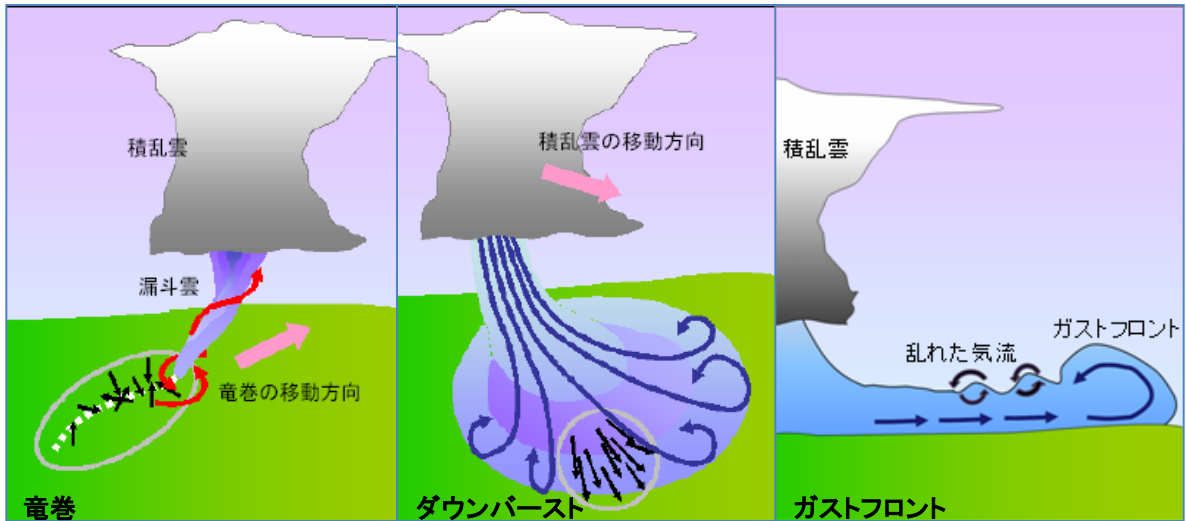
発表日時	注意報	付加事項
11月10日10時20分	強風	
11月10日14時54分	雷、強風	突風
11月10日23時06分	強風	

参考資料：日本版改良藤田スケール(JEFスケール)

米国シカゴ大学の藤田哲也により1971年に考案された藤田スケールを、日本国内で発生する竜巻等突風の強さをよりの確に把握できるようにするため、米国の改良スケールを参考にしつつ、日本の建築物等の特徴を加味し、最新の風工学の知見を取り入れて策定した風速のスケールです。

階級	風速の範囲(3秒平均)	主な被害の状況(参考)
JEFO	25～38m/s	<ul style="list-style-type: none"> ・木造の住宅において、目視でわかる程度の被害、飛散物による窓ガラスの損壊が発生する。比較的狭い範囲の屋根ふき材が浮き上がったり、はく離する。 ・園芸施設において、被覆材(ビニルなど)がはく離する。パイプハウスの鋼管が変形したり、倒壊する。 ・物置が移動したり、横転する。 ・自動販売機が横転する。 ・コンクリートブロック塀(鉄筋なし)の一部が損壊したり、大部分が倒壊する。 ・樹木の枝(直径2cm～8cm)が折れたり、広葉樹(腐朽有り)の幹が折損する。
JEF1	39～52 m/s	<ul style="list-style-type: none"> ・木造の住宅において、比較的広い範囲の屋根ふき材が浮き上がったり、はく離する。屋根の軒先又は野地板が破損したり、飛散する。 ・園芸施設において、多くの地域でプラスチックハウスの構造部材が変形したり、倒壊する。 ・軽自動車や普通自動車(コンパクトカー)が横転する。 ・通常走行中の鉄道車両が転覆する。 ・地上広告板の柱が傾斜したり、変形する。 ・道路交通標識の支柱が傾倒したり、倒壊する。 ・コンクリートブロック塀(鉄筋あり)が損壊したり、倒壊する。 ・樹木が根返りしたり、針葉樹の幹が折損する。
JEF2	53～66 m/s	<ul style="list-style-type: none"> ・木造の住宅において、上部構造の変形に伴い壁が損傷(ゆがみ、ひび割れ等)する。また、小屋組の構成部材が損壊したり、飛散する。 ・鉄骨造倉庫において、屋根ふき材が浮き上がったり、飛散する。 ・普通自動車(ワンボックス)や大型自動車が横転する。 ・鉄筋コンクリート製の電柱が折損する。 ・カーポートの骨組が傾斜したり、倒壊する。 ・コンクリートブロック塀(控壁のあるもの)の大部分が倒壊する。 ・広葉樹の幹が折損する。 ・墓石の棹石が転倒したり、ずれたりする。
JEF3	67～80 m/s	<ul style="list-style-type: none"> ・木造の住宅において、上部構造が著しく変形したり、倒壊する。 ・鉄骨系プレハブ住宅において、屋根の軒先又は野地板が破損したり飛散する、もしくは外壁材が変形したり、浮き上がる。 ・鉄筋コンクリート造の集合住宅において、風圧によってベランダ等の手すりが比較的広い範囲で変形する。 ・工場や倉庫の大規模な庇において、比較的狭い範囲で屋根ふき材がはく離したり、脱落する。 ・鉄骨造倉庫において、外壁材が浮き上がったり、飛散する。 ・アスファルトがはく離・飛散する。
JEF4	81～94 m/s	<ul style="list-style-type: none"> ・工場や倉庫の大規模な庇において、比較的広い範囲で屋根ふき材がはく離したり、脱落する。
JEF5	95 m/s～	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄骨系プレハブ住宅や鉄骨造の倉庫において、上部構造が著しく変形したり、倒壊する。 ・鉄筋コンクリート造の集合住宅において、風圧によってベランダ等の手すりが著しく変形したり、脱落する。

参考資料：突風の分類



(1) 竜巻(上左の模式図)

赤矢印は空気の流れ、黒矢印は樹木等の倒壊方向、白点線は竜巻の経路を表しています。竜巻の発生時にはしばしば積乱雲から漏斗状の雲がのびています。竜巻は周囲の空気を吸い上げながら移動しますので、倒壊物等は竜巻の経路に集まる形で残ります。

(2) ダウンバースト(上中の模式図)

青矢印はダウンバーストの空気の流れ、黒矢印は樹木等の倒壊方向です。積乱雲が移動している場合には、このように移動方向の吹き出しのみが強くなる場合がほとんどです。吹き出しの強さに対応して倒壊物の方向も一方向や扇状になることが少なくありません。

(3) ガストフロントの模式図(上右の模式図)

薄青の領域は周囲より冷たくて重い空気を、また、青矢印は冷気外出流を表しています。黒矢印は乱れた気流を表しています。

(4) じん旋風

晴れた日の昼間に地上付近で発生する鉛直軸を持つ強い渦巻きで、突風により巻き上げられた砂じんを伴う。竜巻と違い積雲や積乱雲に伴わず、地上付近の熱せられた空気の上昇によって発生する。

(5) 漏斗雲

竜巻と同様の現象だが、渦は地上または海上に達しておらず、地表付近で突風は生じない。

(6) その他の突風

自然風は絶えず強くなったり弱くなったり変化しており、その中で一時的に強く吹く風をいう。また、これ以外にガストフロントの中で発生する旋風などもある。

謝辞

この資料を作成するにあたり、関係機関の方々、及び住民の方々にご協力頂きました。ここに御礼申し上げます。

本報告の地図は、国土地理院長の承認を得て、『電子地形図（タイル）』を複製したものである。（承認番号 平26情複、第658号）

本資料の問い合わせ先
長崎地方気象台
TEL : 095-811-4862